

# 看護師派遣制度について ~他病院との連携~

前回「くまもと復興応援ナース」制度について掲載しましたが、今回は他病院からの『看護師派遣制度』についてお伝えしたいと思います。

ご存知の通り、小国公立病院では、長年、看護師不足が大きな問題です。その理由は、入職する看護師が少ない、子供さんの進学を機に小国を離れる、勤務する職員の定年退職者の増加などが考えられます。特にここ数年は深刻さが増し、困窮した状況に陥っています。

他病院からの看護師派遣は、H26年10月に、公立多良木病院から看護師を派遣して頂いたのが始まりです。地域の病院同士の連携で看護師派遣制度が実現したのは画期的なことでした。平成28年3月までに多良木病院から2人の看護師を派遣いただきましたが、その後も看護師不足が継続した為、困った末に熊本赤十字病院へ支援をお願いしたところ、平成28年4月1日より半年単位で、看護師の在職出向をして頂くことになり、他院からの看護師派遣の継続が実現しました。



県の医療政策課にも相談し、熊本市内の大病院看護部長様を対象に、阿蘇圏域への看護師派遣制度の検討を働きかけて頂きました。病院としても、熊本市内の大病院に出向き、看護師派遣をお願いにあがりました。結果、本年度秋より、熊本大学附属病院、国立病院機構熊本医療センターに新たに制度を

整えていただき、看護師派遣をして頂ける事になりました。



現在、3階病棟に熊本赤十字病院から4人目となる「下田 郁香(ふみか)さん」が、国立病院機構熊本医療センターから「吉寄 綾子さん」がH30年3月31日まで、また、2階病棟に熊本大学附属病院から「植野 里織さん」がH30年5月31日まで勤務されています。それぞれが今までとは違う環境の中で、これまで培ってきた経験を生かし、地域医療の場で日々活躍して頂いており、公立病院にとって貴重な存在です。

そこで当院では派遣職員のために、小国郷を少しでも満喫して頂こうと考え、両町の温泉組合のご協力を仰ぎ、「小国郷温泉入浴パス」を発行して頂きました。派遣職員は温泉めぐりを楽しんでいる様子で、住民の皆様から温かいお声かけや励ましを頂いていると聞いております。本当にありがとうございます。

これからも住民の皆様の温かいご理解、ご支援を頂きながら、小国公立病院が末永く、皆様に必要な医療を提供できますように、スタッフ一同努力していきたいと思えます。

また可能な限りこの派遣制度を継続させて頂きながら、引き続き看護師募集も行い、看護師不足を乗り越えたいと強く願っています。これからも、どうぞ温かいご支援の程、宜しくお願いいたします。

(総看護師長 波多野智子)



# ゆたあ〜と

発行  
小国公立病院  
0967-46-3111  
おぐに老人保健施設  
0967-46-6111  
訪問看護ステーション  
0967-46-6050

第 25 号  
平成29年11月1日



ちょこっと豆医学

## 蜂窩織炎(蜂巣炎)とは

(副院長 堀江英親)

『おらあ、傷負けせんもな』

頼もしい言葉です。こちらも心強い。

確かにほとんどの方は、傷からバイ菌(主に細菌)が入っても、持っている自然治癒力で良くなるでしょう。しかし、細菌と人間の相性が悪いと、うまく治癒せず、細菌が繁殖することがあります。つまり、細菌の繁殖力と、人間の免疫力の戦いです。普段は大事に至らないのですが、細菌が優性になると、広い範囲が腫れて、蜂窩織炎(蜂巣炎)になります。



治療は、患部を清潔、安静にして、抗生剤を使用します。人間の免疫力を高めて、細菌の増殖を抑える抗生剤を投与するのです。膿瘍ができたら切開します。重症の方は入院治療です。

近年、蜂窩織炎で入院する方が、多くなっています。(小国公立病院では平成27年5人、平成28年13人、平成29年9月まで11人)。細菌はブドウ球菌や連鎖球菌などありふれた細菌で、特殊なものも多くはないので、免疫力が落ちた方が多くなっているのかもしれない。

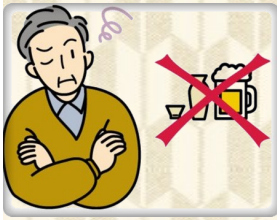
予防としては、

- ① まずは、細菌が入らないように、自分の体を清潔に保ちましょう。水虫などあると小さな傷ができて細菌も人間の体に入りやすくなります。
- ② 無理をしない。不潔な環境で濡れたままで長時間作業したりは避けましょう
- ③ ケガしたときは、水道水で洗い流しましょう。
- ④ 血を止めることも大事ですが、大量出血でなければ、まず洗って下さい。汚れているときには特にご注意ください。
- ⑤ 体力が落ちている時や、基礎疾患(糖尿病など)持っている場合も感染しやすくなります。

『傷負け』という、軽く考える方がいますが、油断すると命に関わることもあります。(急速に悪化するものを壊死性筋膜炎と言います) 抗生剤も必ずしも効果があるとは限りません。抗生剤の効かない細菌もあります。

また、細菌の出す毒素によっては、腎臓などの重要臓器に影響を与えることもあります。腫れの範囲が広い(手先足先だけでなく、上腕や大腿まで腫れる)、高熱が出る、食欲が全く無いなどの状態になったらすぐに病院に行きましょう。

# 職員川柳



## 検診の

## 前日禁酒

## 悪あがき

詠み人 検査芭蕉



# おぐに 老健だより

# 敬老会 が催されました

(実行委員 佐藤 恵麻)



その後は利用者様の「家族と」友人の方々による『雅楽』の演奏でお祝いを盛り上げて頂きました。

入所の最高齢は104歳、通所の最高齢は99歳でしたが、皆様本当に若くてお元気です。施設長の坂本院長より、皆様へ表彰状と贈呈品が贈られ、表彰を受けたお一人お一人から感謝のお言葉を頂きました。

平成29年9月15日 金曜日  
おぐに老人保健施設の敬老会が催されました。  
入所利用者での対象者はシヨートステイを含めて10名(長寿1名・卒寿4名・米寿5名)、通所利用者での対象者は25名(白寿1名・卒寿3名・米寿2名・喜寿2名)、当日は8名の方が対象でした。

本当におめでとございました。

見慣れない楽器や間近で耳にする「雅楽」。皆さんもスツツも、驚きと同時に綺麗な音色に、背筋を正しながら神妙に演奏を聞いておられました。貴重な体験をありがとうございました。機会がありましたらまた演奏会をお願いいたします。

『龍笛』『箏』『鳳笙』という雅楽の楽器で演奏され、神社に行くとき聞かせる『平調の越殿楽』  
ひょうちやうのえてんらく  
『平調の陪臚』  
ひょうちやうのばいり  
ばんしきちやうのえてんらく  
『盤渉調の越殿楽』  
の3曲を演奏して頂きました。



## ～新任看護師紹介～

くどう あさみ  
**工藤 麻美**  
看護師  
おぐに  
老人保健  
施設勤務



7月1日からおぐに老人保健施設で働かせていただいています。毎日忙しいですが、笑顔を忘れず、入所者様に満足いただけるようケアしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

## ～支援医師紹介～

ひらしま かなめ  
**平島 要** 先生  
診察日:  
小児科  
毎週水曜日



2017年4月より主に水曜日に小児科外来を担当することとなりました。これまでは熊本大学病院や熊本市市民病院、都城医療センターなどで勤務し、現在は熊本大学病院で診療と研究を行っております。少しでも皆様の地域に貢献できたいと思います。宜しくお願いいたします。

たむら ひろし  
**田村 博** 先生  
診察日:小児科 毎週月曜日



熊本大学医学部附属病院 小児科より毎週月曜日に小児科外来と救急当直をさせて頂いております。  
小国公立病院は大学院の時からお世話になっていました。今年久しぶりに勤務してみて以前より小児の患者様が多くなった事に驚いています。前任の近所の伊藤先生は小国ライフを満喫されていましたが、自分はまだ何処にも行けない状況です。  
小国はたくさんの良い温泉がありますので、時間があれば是非、行って体を休めたいと思います。外見からは小児科に見られない事が多い自分ですが、子供からは好かれていると自負しています?これからも小国地域の小児医療に少しでも貢献できるよう頑張ります。

うえの さおり  
**植野 里織** 看護師  
2階病棟勤務

小国公立病院の皆様。10月から2階病棟勤務となりました、看護師の植野里織と申します。大学病院では血液内科に所属していました。病院スタッフの皆様優しく迎え入れて頂き、スタッフ・患者様の暖かさや朗らかさに肩の力もぬけました。まだ1ヶ月ですが、しっかりとご指導頂き、安心して病棟業務を行うことができます。早く1人前になればと思っています。8ヶ月間よろしくお願いいたします。

## ～支援看護師紹介～

しもだ ふみか  
**下田 郁香** 看護師  
3階病棟勤務



熊本赤十字病院から参りました、下田郁香と申します。10月から3階病棟でお世話になっております。これから寒くなる小国での生活に不安はありますが、温泉や美味しい食べものを楽しみに乗り越えて行きたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

## ～復興応援ナース紹介～

やまうち あやの  
**山内 彩乃** 看護師  
3階病棟勤務



10月より、熊本復興応援ナースとして、3階病棟で働かせていただく事になりました、山内彩乃と申します。看護師としては、経験もまだまだ浅く、先輩方の中で学ぶ事が多い毎日です。小国での生活も楽しみながら、少しでも力になれる様に頑張りますので、宜しくお願い致します。